山梨県庁の外国人職員による異文化紹介

日本では全国的には少子高齢化社会が進み、これから外国人受け入れの様々な政策や事業が行われていく。従って、日本在住の外国人の割合は増加の傾向にある。

山梨県は、令和元年のデータによると外国人住民数は 16,507 人で、山梨県の人口の２％以上、日本の都道府県の平均 1.5%より多いのである。普段の生活で外国人と触れ合う機会が今後増えていく中で、異文化や相互理解を深めることが必要とされる。

2019 年秋には、山梨県観光部、国際観光交流課に所属の韓国の派遣職員クォン、ブラジルの国際交流員ヂエゴ、インドネシアの国際交流員ファドリーの 3 人が大里保育園を訪問した。まずは子供たちと一緒に体操をして、母国の面白いことをそれぞれ紹介し、発表について子供たちの質問にも答えて楽しい時間を過ごした。その後は外国人職員一人ずつクラスごとに分かれ、保育士の方々と一緒に母国の遊びを教えて子どもたちと一緒に遊んだ。そして、子どもたちと話しながら給食を食べて、最後に一

緒に集合写真を撮った。子どもたちがとても楽しんでいたという印象だった。

このイベントを通して、子供たちは遊びながら異文化に触れることができた。このような取り組みは外国人との相互理解を深めるきっかけになり、日本人にとっても外国人にとっても暮らしやすい街づくりにつながる。国際交流員としてとても重要な活動であり、今後積極的に続けていきたいと思う。

（筆者：国際交流員　ヂエゴ・ラモス）

＊現在山梨県庁の外国人スタッフは組織変更に伴い知事政策局国際戦略グループに所属している